



# 環境学習施設の つくり方

—地域に多面的価値を創出する施設—

【緊急レポート】

「施設間で自慢の企画をかえっこ！」スタート  
～運営力の底上げを目指して～



各地の環境学習施設は、それぞれが独自のワークショップや企画を持っています。この夏、京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」(京都市伏見区)、豊中市伊丹市クリーンランド「豊中伊丹スリーR・センター」(大阪府豊中市)、国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」(兵庫県川西市)の3施設が、それぞれの企画を相互に

出張実施する取り組みを始めました。3施設はともにごみ処理施設に併設の学習施設で、互いに自動車で1時間前後の距離。近隣にあるとはいえ、互いの運営や企画の細かいことは案外知らないものです。各施設のスタッフが出張して自慢の企画を実施することで、そのノウハウを水平展開し、それぞれの企画力を底上げしていこうというのが狙いです。

題して「自慢の企画をかえっこ！」。始まったばかりの取り組みを緊急レポートします。

## 京都↓兵庫 「昆虫教室」

「日本には、カマキリは10種類くらいいるんだよ!」  
「よく知っているねえ。先生が話しますこと、なくなっちゃったなあ……」  
自慢そうに「日本に生息するカマキリが約10種類!」と言ったのは、参加の小学生。「よく知っているね」と応じたのは、先生役の金地伊織さん。金地さんは「さすてな京都」の環境学習プログラムの担当者です。この日(7月31日)は「ゆめほたる」の敷地内里山林を訪れ、「昆虫教室」の講師を務めました。

金地さんは明治大学大学院で「糞虫」を研究していた昆虫の専門家。仕事の傍ら趣味でも昆虫採集を行っており、ご自宅には60箱以上の標本箱が並んでいるそうです。金地さんは、最大9mにまで伸びる虫

捕り網を手に出発! 昆虫好きの子供たちは憧れの目で見つめます。そして、発酵した樹液の香りを頼りに樹木の幹を探り、里山林内で朽ちた木を動かしてみたり、ピオトープをのぞいたり。

セミの抜け殻を見て「これはニイゼミ」「ヒグラシの抜け殻」と口々に話します。スジクワガタ、オオシオカラトンボ、オオカマキリ……と次々昆虫が見つかり、冒頭の「日本に生息するカマキリは約10種類!」という場面になりました。

国崎クリーンセンターは兵庫県川西市・猪名川町、大阪府豊能町・能勢町の1市3町で構成する「猪名川上流広域ごみ処理施設組合」が運営するごみ処理施設です。川西市北部



「昆虫教室」のようす。右端が「さすてな京都」の金地伊織さん(国崎クリーンセンターの里山林内で)

にある敷地は甲子園球場8個分以上に相当する33・8haで、その多くが自然豊かな里山林です。

ところで、金地さんが院生時代に研究していた「糞虫」はコガネムシの仲間、哺乳類のふんを餌にしています。というわけで、金地さんはシカなどの哺乳類についても詳しいのです。里山林での教室は、金地さんの絶好の舞台でした。昆虫のことだけでなく、増えすぎたシカが草や樹皮を食べる里山林の植生に影響が出ている問題なども子供たちに語ってくれました。

## 大阪↓兵庫 「食器リユース市」

「ゆめほたる」で9月1日に開催された大規模催事「ファミリーフ



「食器リユース市」のようす（「ゆめほたる」で）



「分解ワークショップ」で夢中でパソコンの分解に挑戦する子ども（「さすてな京都」で）

リーマーケット」で、ひとときわ注目を集めたのは、不要になった食器を無料で譲る「食器リユース市」のコーナーでした。「豊中伊丹スリー・センター」から出張しての初開催。リユース食器を204枚用意したところ2時間ほどで計201枚が51人のお客さまの手に渡り、残ったのは3枚だけ。スリーR・センターから出張した2人のスタッフは対応に大忙しでした。

豊中市伊丹市クリーンランドは、大阪府豊中市と兵庫県伊丹市の2市で設けた一部事務組合。食器リユース市も基本的に2市を対象にした食器リユース&リサイクル活動です。「2市以外での出張開催は初めてでしたが、こんなに食器を持ち帰っていただけたことはなかったです」と

武田愛事務局長は驚いていました。2市では2018年度から2020年度まで「食器リサイクル実証実験」を実施。2市の図書館などの公共施設に食器リユースボックスを設置し、市民から陶磁器の回収を行ったところ約485kgが集まりました。また、学校給食センターなど4施設の移転により引き取った1683kgを合わせ計2168kgを回収。こうした食器のほとんどはリユースできるもので、イベント等で「食器リユース市」として市民に配布し、リユースできない20kgをリサイクルに回しました。

こうして2021年度からリユース食器の回収・配布に切り替えて実施しています。仕組みの構築についてのストーリーも、他施設にとつて

非常に参考になる情報となりました。

**兵庫↓京都 「分解ワークショップ」**

「さすてな京都」のセミナーは17人の親子が集まっているのに、おしゃべりはなく静寂に包まれました。子供たちがパソコンのねじを外したり、基板を取り出したりするの集中していたからです。8月19日、「ゆめほたる」の石塚順さんが出張開催した「親子で分解ワークショップ！」のひとコマです。

「分解ワークショップ」は、夏休みや冬休みなどの長期休暇中に開催しているゆめほたるの人気企画です。小型家電を分解することを通して、その構造や部品について理解してもらいます。また、パソコンなどの基板類に希少金属が含まれていて、それを取り出せば再び利用でき「都市鉱山」として注目されていることも説明します。こうして、小型家電の分別回収の大切さについて学んでもらうワークショップとしています。

さらに、収集にもなって発火するなどして問題になっているリチウムイオン電池の捨て方の啓発もし、ごみ処理施設に併設の環境学習施設ならではの取り組みとなっています。

「企画をかえっこ」のスタートにあたっては、趣意書のやり取りや関係機関とのすり合わせ、日程調整などが伴います。また、交通費や材料費などの負担についても決めておく必要があります。紹介した三つのケースでは、経費は出張元の施設が負担することとしました。

事前の準備や打ち合わせの大変さがあったとしても、こうした取り組みは非常に有意義です。スタッフが行き来して、それぞれ企画が充実し、ノウハウも蓄積されていく。その試行錯誤の積み重ねが新たな企画につながっていくはず。環境学習施設研究会

※連載中の「施設運営に関する特別編」の第3編「地域素材の活用レシピ紹介」は、来年1月号に掲載の予定です。

●連絡先●  
 環境学習施設研究会  
[https://www.facebook.com/facilities.env.edu.888/?locale=ja\\_JP](https://www.facebook.com/facilities.env.edu.888/?locale=ja_JP)  
 「環境学習施設研究会」で検索すると、(一社)廃棄物資源循環学会環境学習施設研究会のページがでています。同部会がfacebookの「環境学習施設を考える会」も運営しています。